

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

内容
<p>【コロナ対応版(時間短縮)ワークショップ内容】</p> <p>(導入)活動の目的と概要を伝えます。アイスブレイクのための活動を行います。</p> <p>(展開)共演場面の内容を伝えます。場面設定を共有したうえでセリフを考えて、即興的に演じながら、共演場面を創作します。</p> <p>(まとめ)共演児童を決定します。共演児童は、実際の舞台と同サイズにテーピングした場所を使い、参加共演場面を演じます。他の児童は、見学します。</p> <p>【共演の内容】</p> <p>共演児童は4年生以上を予定しています。共演児童10名～15名程。</p> <p>下校前の場面での共演です。逃げ出したウサギに気づく前の子どもたちの日常を描いた場面です。登場人物と共に大縄とび(エア大縄)をして遊びをします。実施校の共演児童のアイデアを活かして台詞をつくり、場面を創作し共演します。</p>

タイムスケジュール(標準)
感染症拡大防止の為、公演当日または開催時間を縮小してワークショップを実施する場合は以下のタイムスケジュールで実施します。
0～5分＝アイスブレイクの活動
5分～25分＝共演場面の説明、共演場面の創作
25分～45分＝共演場面の練習

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
主講師1名、補助者1名 計2名

学校における事前指導
共演場面の内容を漫画やイラストで書いた手紙を送ります。手紙を実施学級に掲示し、児童生徒に周知を図ってください。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

演目
演目：学校ウサギをつかまえろ 原作：岡田淳（「学校うさぎをつかまえろ」借成社） 脚本/演出：田辺剛（下鴨車窓） 舞台美術：方 勝 衣装：木場絵里香 音楽/音響：ノノヤママナコ 照明：四方あさお 振付：下出祐子 公演時間（65分）

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者：6名 スタッフ：1名 合計：7名

タイムスケジュール（標準）					
到着	仕込み/リハーサル	本公演	内休憩	撤去/積込	退出
9:00	9:00～11:30 /11:30～12:15	13:30～14:35	無	15:00～16:30	16:30

実施校への協力依頼人員
・公演実施前 上演演目のポスターを校内などに掲示し、児童生徒への周知にご協力ください。 また、本事業のパンフレットの配布をお願いします。
・公演当日 保護者などがご来場の場合は、保護者受付・携帯電話のマナーに関するのインフォメーションをお願いします。

演目解説

【あらすじ】

下校の時間が過ぎたころ、4年3組の子どもたちが工事現場にウサギが駆け込むところを目撃！学校の飼育小屋の最後の一匹に違いない。子どもたちのウサギ捜索が始まった。ウサギはプレハブの床下にいるところを発見されるが、なかなか捕まらない。長い棒で追いかけたり、エサをやったり、あの手この手と試すうちに日も暮れてきた。どうやってウサギをつかまえるか？話しているうちに教室ではわからなかった友達の素顔が見えてくる。ウサギを追って、子どもたちの気持ちが一つになっていく。

【みどころ】

性格も家庭環境も違う子どもたちが一匹のウサギを捕まえることに夢中になる姿、一緒に成し遂げた時の高揚感と、「みんなありがとう！」という気持ちに深く感動する演劇です。回転する舞台を用いて、ウサギを追う緊張感やスピード感を体感できる演出も魅力です。随所に入る歌とダンスも、子どもたちが持つ躍動感を良く表現しており、観客を惹きつけ続けます。

「学校ウサギをつかまえろ」は、定評ある児童文学者岡田淳の同名の児童文学を劇化した児童劇です。子どもが共感しやすい内容であり、初めて演劇を鑑賞する児童にも楽しく鑑賞でき、また深い感動の体験となる作品です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

共演児童は4年生以上を予定しています。共演児童10名～15名程。

下校前の場面での共演です。逃げ出したウサギに気づく前の子どもたちの日常を描いた場面です。登場人物と共に大縄とび(エア大縄)をして遊びをします。実施校の共演児童のアイデアを活かして台詞をつくり、場面を創作し共演します。

児童生徒とのふれあい

- ・ 公演の準備作業(舞台設営作業など)を見学することが可能です。回り舞台や照明設備が出来上がっていく様子を見学する事で、公演への期待が一層高まるものと考えます。また、各スタッフが連携し協力しながら設営作業を進める様子を見学する事で、他者と協力することや円滑なコミュニケーションなどを学ぶ機会になるものと考えます。
- ・ 上演後、出演俳優や団員との交流の場を設けます。劇の内容に関する質問や感想を交し合うことで観劇体験が深化し、他者の質問や感想を聞くことで、より多面的な理解が促進されるものと考えます。
- ・ 上演後、舞台裏の見学を計画しています。演出効果の仕掛けや工夫を身近に見ることや、効果音などを出す体験は、舞台芸術への興味関心を強く喚起し、未来の芸術家育成・観客育成につながるものと考えます

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、児童生徒との触れ合いを自粛することがあります。